

すごいっしょ！ひだか ~知ってる?! ひだかのミニトマト~

○どんな産地なの？

新ひだか町では48戸の農家が、ビニールハウスでミニトマトづくりに取り組んでいます。「涼夏少雪」という施設園芸に適した気候条件を活かして栽培しています。

5月～11月まで収穫し、JAしずくないにて共同選果され、出荷されています。

平成7年にはブランド名の公募を行い、「太陽の瞳」が誕生しました。

新規就農者の仲間も増え、新ひだか町産ミニトマト「太陽の瞳」は産地拡大中です。

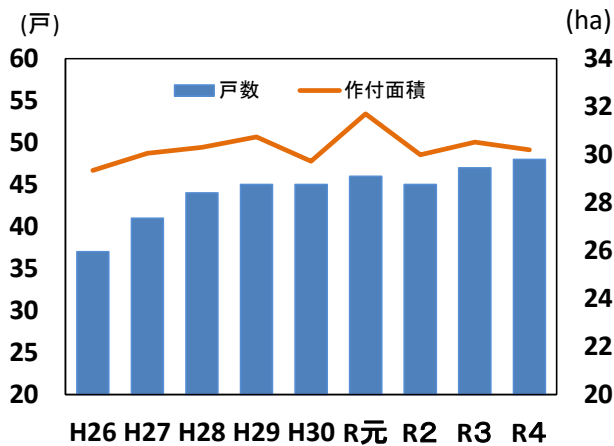


図1：JAしずくないミニトマト栽培戸数と作付面積
JAしずくない調べ



写真1：真っ赤に実ったミニトマト

○産地になるまで

ミニトマトの栽培は、昭和58年に地元の卸売市場の働きかけによって6戸の農家からスタートしました。当時は手探りの状態で、研修会の開催や、熊本県まで技術を習得するために視察に行くなど、様々な努力をしてきました。その結果、生産量、売上、農家戸数ともに年々増加していきました。



写真2：出荷を待つ「太陽の瞳」(JAしずくない)

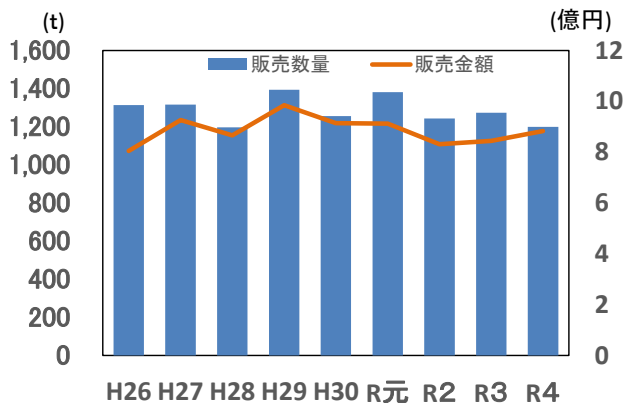


図2：JAしずくないミニトマトの販売金額と販売数量
JAしずくない調べ



写真3：普及センターによる実証ほ調査